

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どりーむ
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町5210番地4 (電話) 0993-32-0313
自己評価作成日	平成30年10月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に支えられながら、14年がたちました。職員の約7割が5年以上の勤務であり、認知症介護に、長年の経験を積んできています。また、6割の職員が看護資格を有しております、家族の方々より「安心です」との言葉を頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年11月14日

- 当事業所は、地域に根ざしたグループホームである。市見守り協力事業所110番の登録を行い小学校との交流などで地域の拠点となっている。

- 明るく家庭的な雰囲気の中、利用者の楽しみやメリハリのある計画のレクリエーション・花壇・装飾などを行い、残存機能の保持や心に届くケアを行っている。

- 自治会に加入して総会や清掃活動・地域の行事に参加している。地域住民から利用者への声かけや車椅子の誘導などの協力がある。県下一周駅伝の応援や稚児行列の見物等の地域交流を行っている。地域の住民で結成したドリーム独自の自衛消防隊があり、合同避難訓練にも参加している。

- 職員の勤務年数が長く6割が看護師の資格を有している。職員は、目標を持って自己研鑽に励み、質の高い介護サービスを提供するよう取り組んでいる。管理者は職員とのコミュニケーションを図り信頼関係がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を唱和することはしなくなつたが、個々の介護方法を検討するときの、基本となつてゐる。	当事業所独自の理念があり、フロアに掲げている。パンフレットにも掲載している。ミーティングや職員会議の時に、ケアの基本を振り返り、確認しながら、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、近所で棟上げが2軒もあり、地域の方々が協力して下さり、楽しく安全に参加できた。	自治会に加入し、総会や清掃作業・地域の行事・避難総合訓練等に参加している。散歩や墓参りの時に挨拶を交わしたり、近隣へ出かけて住民と交流している。地域から野菜の差し入れがあつたり、介護相談に気軽に応じている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	利用者と地域を散歩する際は、近所の高齢者に声かけしたり、地域の方の介護相談にのつてゐる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を行い、行政・自治会長・家族代表・利用者代表の参加を得て、サービス内容や利用者の生活状況の報告を行っている。また、アドバイスは、職員間で共有し、サービスに活かしている。	定期的に開催している。利用者の状況・ヒヤリハット・事故報告・行事計画・活動状況等を報告し、地域代表から地域の状況を聞き、行政からは介護保険の改正や身体拘束廃止についての情報・助言等があり、出された意見は、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	会議への参加時や、電話での相談に乗って頂き、書類や介護に関する法律や研修など、アドバイスを頂いている。	市担当者とは、電話や運営推進会議の時に、書類更新や身体拘束関係の法改正等、相談したりアドバイスを受けている。グループホーム連絡協議会や市主催の研修会には、積極的に参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会や、身体拘束廃止推進委員会の開催を行い、拘束のない介護に努めている。	指針・マニュアルを基に身体拘束廃止委員会を開催して、勉強会を全施設合同で実施している。言葉の拘束も含め具体的な事例を出して、グループワークをしている。施設内勉強会も行い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出希望の時は見守りや話を聞いたり、寄り添って対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	利用者の訴えに耳を傾け、外傷発生時などは、原因を明確にし、本人は家族への報告やお詫びと再発防止に努めている。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今までに対象となる方は、いなかったが、状況に応じて行政に相談しながら、支援したいと考えている。			
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明書などを活用し、説明と同意に努めている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人とは、日々の生活の中で、1対1で話す機会を持ち、意見を聞くよう意識している。家族とは、面会や支払いの機会に、利用者の状況説明とともに意見を伺ったり、電話やメールなどの通信機器を活用し、意見交換している。	利用者とは日常のケアの関わりの中で意見や要望を把握している。家族からは面会の時や敬老会・運営推進会議参加時・便り・ラインの交信等で思いを聞いている。出された意見は、運営に反映させていている。利用者から「初詣や買い物に行きたい」等の要望があり、家族と相談して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見や提案を管理者が聞いて検討し、代表者に伝え判断してもらっている。</p>	<p>管理者と職員は日頃からコミュニケーションが良く、意見や提案が言いやすい環境にある。個別にも相談にのっている。意見はホワイトボードの活用や申し込みノートで対応している。行事計画や薬取りの支援等、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>現場把握は管理者に一任していることが多い、代表者と直接に話す機会は少ないが、代表者は毎朝、ホームに顔を出し、声かけや現場観察を行っている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会参加手当の支給を、年4回の施設内勉強会の他、協議会での研修会に支給し、研修意欲の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会への参加はしているが、年1回の研修会に参加するのみで、他の事業所との交流を図るまでには至っていない。管理者は年1~2回の交流会などに参加して意見交換するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し、ホームの説明だけでなく、意見や要望を伺い、理解を示すことで、関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の不安や要望に耳を傾けるのは勿論の事、入所申込みの際から、介護相談にはいつでも対応する旨の声かけを行って、信頼関係の構築に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族や関係機関からの情報を基に、必要なサービスを見極め、幅広い対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内の作業や地域での行事に、一緒に参加し取り組むことで、共に暮らす仲間としての支えあう関係を大切に考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者への関心が薄れて、面会の機会が少なくならないよう連絡や状況報告などを、毎月のお知らせや、面会時や電話、メールなどを活用して行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診の際には、知り合いの方との会話をとりもったり、家族へ外出の声かけや協力を申し出たりして、馴染みの関係継続を支援している。	近隣の馴染みの知人等の訪問があり、面会者が多い。かかりつけ医への受診の際に、友人と出会い、親しく言葉を交わすこともある。買い物に同行した時やドライブで馴染みの場所に出かけている。家族の協力を得ながら墓参等に出かけている。年賀状や郵便物・電話の対応など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や理解力を考慮した座席配置と会話の取り持ちに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローシ、相談や支援に努めている	退所後も、介護相談があったり、家族がホームに立ち寄ってくださったり、地域で会うと、声を掛け合うなどの関係が続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個々の希望や意向を汲み取るように、職員間で利用者の意見や反応を共有しあい、本人本位の検討に努めている。</p>	<p>職員から話しかけて、思いや暮らしの希望を問い合わせ、表情や所作で意向をくみ取っている。夜間や入浴の時等、コミュニケーションを図っている。気づきノートや申し送りで連携をとっている。『帰りたい。席の場所が嫌』だったり、夜眠れない時には寄り添って、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や職員と情報を共有しながら、本人本位に検討している。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日頃のコミュニケーションの中で得た情報を、職員間で共有し、これまでの生活の把握に活かしている。</p>	
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎朝の申し送りで、現状の評価と支援方法の検討を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や介護職員からの情報と、面会や電話での家族の意見を反映した計画立案に努めている。	本人の希望や要望と、家族から、面会時や電話等で得られた意見や意向を基にして、職員間で話し合い、主治医の意見を入れて、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、見直しは6ヶ月～1年で行っている。状況に変化があった時は、その都度見直して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化の少ない穏やかな生活であるが、日々の記録や職員間でのコミュニケーションを活かして、実践や介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や食事内容など、ニーズに応えられるように、可能な限り柔軟に対応している。その他の個別なニーズに対しても、職員間で検討し、施設長や行政に相談しながら、対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々で結成された自衛消防隊には、いつも協力頂いているほか、今年は2軒もの棟上げがあり、利用者が安全に参加できるように、地域の方々が配慮してくださいました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入院前からの、かかりつけ医との関係を継続できるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の希望で入居前からの主治医である。定期健診には毎月、職員が同行して家族に報告している。他科受診は家族の協力を得ている。緊急時は主治医に連絡、主治医の指示で対応して適切な医療を受けている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤4名中3名、非常勤も5名中3名が看護資格を有していることから、情報の共有や検討がしやすい状況にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院入院時の情報提供書の提出や退院時の担当者会議への参加の他、外来受診においては、外来看護師との関係づくりに努めている。</p>		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の希望を、家族に確認し、状態変化があった際には、状況に応じて指針に沿った、方針の確認を行っている。	入居時に説明を行い、重度化になってきたときは早めに家族と話し合いを設けるようになっている。今までの経験も活かし家族や主治医・職員の細かい連携を行いながら取り組んでいる。状況に変化があった時は、指針に沿って主治医・家族・職員で段階的に話し合いを重ね、方向性を検討し確認している。医療機関や特別養護老人ホームに移動する利用者もいる。職員に看護師がおり、看取りの事例もある。	
34	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、看護資格を有した職員がリーダーとなって対応し、職員が不安に思えば、勉強会やミーティングの際には、緊急対応の指導を行っている。		
35 13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や指宿市で行われる地震や津波の避難訓練への参加の他、新入職員があった場合は、早めに避難訓練を行っている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、1回は消防署立ち合いで、1回は自主訓練である。緊急連絡網には、地域の協力がある。スプリンクラーや緊急通報装置の点検は業者が行っている。消防訓練やAEDの講習も受けている。地域の自衛消防隊の合同訓練や県・市・自治会との合同訓練・津波対応避難訓練にも参加している。備蓄は水・缶詰・レトルト食品・カップラーメン等を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>親しみのある方言を使いながらも、失礼にならないように丁寧な言葉使いを意識している。トイレの声かけなども、配慮している。</p>	<p>マニュアルを作成している。本年度は、どりーむ全体の勉強会を年4回実施している。言葉づかいは否定的な言葉にならないよう、トイレ誘導は耳元で声かけ、名前の呼び方等に配慮している。人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように支援している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者それぞれと、職員とが話をしている場面も多くみられ、希望を聞いたり、意思確認したりして、支援を行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課に添った生活ではあるが、希望があれば、体調に影響ない程度の臥床や、入浴・散歩や買い物など、臨機応変に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>入浴後の着替えを、一緒に準備したり、散髪の希望に応えて、職員で整えたり、家族の協力で散髪に出かけるなどの支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下ごしらえを協力してもらったり、嫌いなものは個別でメニューを変更するなど、食事を楽しみに出来るよう支援している。</p>	<p>入居時に本人や家族から聴きとり、嗜好調査を実施している。食事の形態にも気配りし食べやすく調理している。嫌いな物は代替え食で対応している。野菜の皮むき・豆のすじ取り等、利用者の機能に応じて一緒に行っている。行事食は、おせち料理・彼岸・誕生会・敬老会等、楽しみな食事になるよう工夫して支援している。家族と外食に行くこともある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>A勤務者をリーダーとして、その日の食事や水分量、排泄状況などを責任を持って、管理するようになっている。また、食事や間食の目安として、毎月の体重測定にも努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアを、それぞれに合った方法で支援している。必要な方には、歯科受診も、家族と相談しながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、職員間で情報を共有しながら、時間や介助方法を随時検討している。日中は、トイレ排泄を支援し、おむつ減らしや、気持ち良い排泄を支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握、誘導や声かけして、日中は全員トイレを使用している。布パンツやリハビリパンツ・尿とりパットの使用など、個々の状況で、昼夜間使い分けて対応している。夜間のみポータブル使用の利用者もおり、見守りやセンサーマットを使用して安全に排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための、食事、水分、運動への配慮と、医師の指導のもと、適切な緩下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週間の入浴計画はあるが、個々の汚染状況や希望にあわせて、臨機応変に支援している。	入浴は週3回を基本にしているが、個々の体調やその時の状況で柔軟に対応し清潔保持できるように支援している。夏場のシャワーバスや体調により清拭・足浴などもしている。寒い時はゆず湯や入浴剤を使っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、臥床の時間は決まっていない為、個々の希望に合わせて、支援している。室温、寝具の調整も希望を聞きながら調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護資格を有している職員が、6割を占めており、内服管理や理解には長けている。			
48	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や季節の飾り物の工作を行なったり、花壇やプランターで、花や野菜作りを行ったりしている。ホームの近くからは、開聞岳や海を望む事ができ、散歩も喜ばれている。			
49 18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩やドライブの希望には、その都度支援している。遠方への外出や帰宅の希望には、家族と相談しながら、可能な方法を検討して、協力をしている。	その日の希望にそって、天気の良い日は、近隣の散歩や外気浴をしたり、ドライブに出かけることもある。盆や彼岸に墓参りや帰宅等、家族と相談して支援している。地域行事や稚児行列の見物・駅伝の応援等に出かけている。年間計画で花見・そうめん流し・初詣など、家族の協力を得ながら出かけられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、家族と相談して、お金を所持することは可能であるが、最近は希望者がない。			
51	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族へ手紙や手作り作品を送りたい場合の支援を行っている。電話は、職員から声をかけて、気軽に話せるように支援している。			
52 19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の管理と、適宜の換気を行っている。季節の花を飾ったり、季節や行事に合わせた飾りと一緒に作成して、飾っている。	ホールは高い天井に木製の梁を使い、温もりがある。広い空間で畳のスペースもある。温度・湿度が調整され換気も行われている。季節感のある作品や行事の写真が壁に飾ってある。台所からは、調理している姿やおいしい匂いが漂い、家庭的な雰囲気に生活感があり、居心地よく過ごせる工夫がされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さな施設である為、見守りはしやすい反面、ストレスとならないように、自室でゆっくり過ごして頂いたり、個別散歩したりしている。利用者同士で、お互いの部屋を訪ねる姿もある。			
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、家から馴染みの品を持ってきてても良いことを伝えている。家族の写真や、遺影や、飾り物で、自分の部屋を作っている方が多い。	居室にはベッド・エアコン・タシス・洗面台が設置してある。家から持ち込まれた、家族写真やカレンダー・時計・ラジオ・ぬいぐるみ・位牌・遺影・小物などがあり、個性のある部屋づくりで、掃出し窓になっており、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知度や障害の状況に合わせて、家具の配置や手すり、ミラー、照明を検討している。			

## V アウトカム項目

	56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
	57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
	58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
	59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
		○	2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない